

環境経営レポート

日本システム開発株式会社
53期（2022年7月1日～2023年6月30日）



2023年7月31日
NSKエコプロジェクト

目次

■計画の策定（Plan）

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
 - 3-1 環境理念
 - 3-2 環境方針
 - 3-3 生物多様性保全宣言
4. 環境経営目標
 - 4-1 中期（3年）環境目標
 - 4-2 53期 環境目標
5. 環境経営計画
 - 5-1 53期 環境経営計画
 - 5-2 全社向け啓蒙 ポスター（53期環境活動）

■計画の実施（Do）

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容
 - 6-1 実施体制
 - 6-2 53期の活動記録
 - 6-3 3年間の取組の推移（電力と廃棄物）

■取組状況の確認及び評価（Check）

7. 53期取組結果とその評価、次年度取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反・起訴等の有無

■全体の評価と見直し（Act）

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 組織の概要

会社名	日本システム開発株式会社
設立	1971年（昭和46年）5月
資本金	1億円
代表者	代表取締役 亀井 政之
社員数	128名（2023年6月末現在）
事業内容	ソフトウェアの開発販売、旅行業ソリューション、 創薬研究支援サービス
事業所	●本社 東京都新宿区歌舞伎町2-4-10 KDX東新宿ビル 電話：03-6302-1371 FAX：03-6302-1391 ●創薬研究支援センター 東京都大田区平和島6-1-1 TRCセンタービル8F
ホームページ	http://www.nsk.co.jp
事業所データ	●本社 KDX東新宿ビル6階 床面積：737.82㎡ ●創薬研究支援センター TRCセンタービル8F 床面積：186.82㎡

2. 対象範囲

認証	登録番号：0000875
登録範囲	全社、全組織
レポート対象期間	令和4年7月1日～令和5年6月30日（当社53期）
レポート発行日	令和5年7月31日

3. 環境経営方針

3-1. 環境理念

2010年7月1日
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社は「地球資源が有限であることを認識し、環境保全に永続的に配慮していく」ことを重要経営課題のひとつとし、事業活動と地球環境の調和を目指して全社員が環境問題に積極的に取り組み、この取り組みを継続的に改善していくことで社会の安全と発展に貢献し社会的責任を果たします。

3-2. 環境方針

2011年7月策定, 2019年7月見直し
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

1. 全社員は、資源およびエネルギーの有限性を深く認識し、節約およびリサイクルに積極的
に取り組み、環境負荷低減と環境汚染の予防に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・環境目標を具体的に設定し、運用、
評価、見直しを実施して、継続的な改善に努めます。
3. 環境教育・周知活動を推進し、社員の環境意識の向上を図るとともに、環境方針を社外に
公開します。
4. 事業活動にあたって、法規制、条例およびその他の要求事項を遵守します。
5. 当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ
「自然共生社会」の実現に向けて取り組みます。
6. 業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進します。

3-3. 生物多様性保全宣言

2011年3月策定
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ「自然共生社会」の実現に向け、取り組んでまいります。

1. 生物多様性保全を、企業の重要課題のひとつとして捉え、事業計画、企画、開発、設計、製造、試験など、全ての事業活動において、生物多様性への影響を配慮します。
2. 電力等エネルギーの使用、水資源の利用、原材料の調達、化学物質や廃棄物排出などにおいて生物多様性への影響に配慮し、低減に努めます。
3. 顧客、取引先、地域社会、社員などのステークホルダーと連携した生物多様性保全活動を推進します。
4. 生物多様性保全の周知活動を推進し、社員の生物多様性保全への意識向上を図るとともに生物多様性保全宣言を社外に公開します。

4. 環境経営目標

4-1. 中期（3年）環境経営目標

中期（3年）目標（53期～55期）は以下の通り

※53期（2022年7月～2023年6月）、54期（2023年7月～2024年6月）、55期（2024年7月～2025年6月）

2022年8月3日
承認：代表取締役 亀井政之
作成：環境管理責任者 三浦 未知央

●53期～55期の中期目標

環境経営方針	環境目的	環境経営目標(53期～55期)
1.環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	52期 98,565kWh(本社実績)、40,773kWh(TRC実績) 53期 95,000kWh(本社) 作業量は昨年並みを想定。しばらくはコロナ対策も続ける為、在宅作業中の社内PC終夜運転、窓開け空調稼働を考慮。 40,000kWh(TRC) 化合物の冷蔵保管、停電対策用の機器の増加も見込んでいる。 54期 90,000kWh(本社) 大型電気製品が多いため、電力使用量は本社の2倍を見込む 40,000kWh(TRC) 新型コロナの影響が若干収まる想定 55期 90,000kWh(本社) 新型コロナの影響がさらに収まる想定 40,000kWh(TRC) ――基準年を52期とする。本社は各年5～8名増による使用電力増を見込む一方、作業時間の削減努力や節電対策による節電効果も織り込んだ目標とする。 TRCは52期途中から省電力空調へ刷新した効果と大型電気機器の新規購入による電力使用量増加を差し引き、52期程度の消費電力を目標とする。
	廃棄物の削減 本社のみ	一般 産廃 循環資源ゴミ 51期 1,815kg 5,540kg 1,295kg 実績 53期 1,900kg 5,500kg 1,300kg 51期と同程度 54期 1,900kg 5,500kg 1,300kg 51期と同程度 55期 1,900kg 5,500kg 1,300kg 51期と同程度 ――基準年を51期とする。(52期はPCを大量に買換えたため、基準年にはしない) 一般、循環は各年5～8名増による廃棄量増を見込む一方で、削減対策による削減効果も織り込み基準年と同程度とする。 産廃(プラゴミ)が増え続けていることに歯止めをかける施策を考える。
	作業時間の短縮	52期 平均154.9hour/month 実績 53期 平均155hour/month 以下 52期と同程度 54期 平均155hour/month 以下 52期と同程度 55期 平均155hour/month 以下 52期と同程度 ――基準年を52期とし、同量を想定。
2.教育・啓蒙	教育・啓蒙 広報	55期までの活動として以下を実践する ・環境活動への取り組みを『見える化』するシステムを社員に使う。毎月8割以上。 ・社員へエコ関連の教育を実施する。 ・当社のEA21活動目標と具体的な活動内容を共有する。 ・定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 ・後始末の徹底、プラゴミ削減運動を推進 関連法規をチェックし遵守する。
3.法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4.生物多様性への配慮	生物多様性 保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5.業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。

● 3か年の具体的な施策案

- 1) 電力使用量低減に向け、作業時間の削減努力、エアコンの適正な利用管理、不要箇所の消灯の徹底等を実施する。
また低電力の新商品へ電子機器を買い替える対応も行っていく。
- 2) 廃棄物については、ペーパーレス化と適切なゴミの分別を徹底していく。
- 3) エコチャレンジシステムの毎月の利用を啓蒙し続ける。
- 4) ポスター、NSKカードで活動目標と具体的活動内容を共有する
- 5) エコ委員会活動を継続し、定期的に社員へ活動報告し、エコ推進を啓蒙する。
- 6) 創立記念式典で、社員へ生物多様性やエコに関連したセミナーを開催する。
- 7) 創立記念式典で、社員へエコ活動結果を報告・共有する。
- 8) お客様の業務効率改善、環境負荷削減を意識したシステムやアイデアを提供、提案する。

4-2. 5 3期環境経営目標

環境方針	環境目的	環境経営目標
1.環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	53期目標 95,000kWh(本社) 40,000kWh(T R C) 53期目標 (本社のみ)
	一般廃棄物の分別	一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,300kg
	産業廃棄物の 適正廃棄	53期目標 (本社のみ) 産業廃棄物 5,500kg
	作業時間の短縮	1人平均155hour/month 以下
2.教育・訓練	教育・訓練	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA 2 1 活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する
3.法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4.生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5.業務における資源 削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源 削減、エコ素材推奨を 推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。



当社作成
「エコチャレンジシステム」

各自がCO2削減目標を設定し、自己評価を行っていくことで、部門別や個人別のCO2削減量が可視化できます。

5. 環境経営計画

5-1. 53期 環境経営計画

環境方針	環境目的	環境経営目標	手段	環境経営計画 担当者（責任者）	2022年 実施計画（月） 2023年											
					7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
1.環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	53期目標 95,000kWh(本社) 40,000kWh (T R C)	以下の実施状況を毎月チェック ・昼休み消灯 ・非使用場所の消灯 ・エアコン設定温度 ・扇風機の活用 ・離席時のディスプレイ消灯 ・主電源をこまめにOFF	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	一般廃棄物の分別	53期目標（本社のみ） 一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,300kg	以下の実施状況を毎月チェック ・使い捨て製品の使用や購入抑制 ・ごみの分別の徹底 ・両面・集約印刷とコピー ・整理整頓	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	産業廃棄物の 適正廃棄	53期目標（本社のみ） 産業廃棄物 5,500kg	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄マニフェストの適正管理	エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	作業時間の短縮	1人平均155hour/month 以下	作業時間の把握 作業の効率化、作業分担の工夫	エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 部長、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.教育・訓練	教育・訓練	環境活動への取り組みを「見える化」するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジの利用啓蒙 NSKカード着用確認	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			創立記念式典での教育	事務局、（環境管理責任者）												○
			委員会議事録作成と周知・毎月のエコ目標の決定と周知	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			社員へNSKカード配布、エコポスター掲示	事務局、（環境管理責任者）		○										
3.法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック 定期的な遵守チェック	環境管理責任者、（環境管理責任者）	○						○					
4.生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で生物多様性の現状とその保全状況を社員へ周知	事務局、（環境管理責任者）												○
5.業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じて、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	以下の実施状況をチェック ・本業においてエコを意識しているか ・ITシステム・ITソリューション提供による、顧客と社会の環境負荷削減貢献	環境管理責任者、（環境管理責任者）	○					○						

今期目標を周知し、啓蒙する

53期エコプロジェクト目標

消費電力の削減

昼休み、不要場所の消灯
エアコンの節電（扇風機の活用）
不要時のPCの電源オフ

廃棄物の削減・リサイクル

ごみの分別
両面・集約印刷の推進
エコバッグの利用

労働時間の短縮

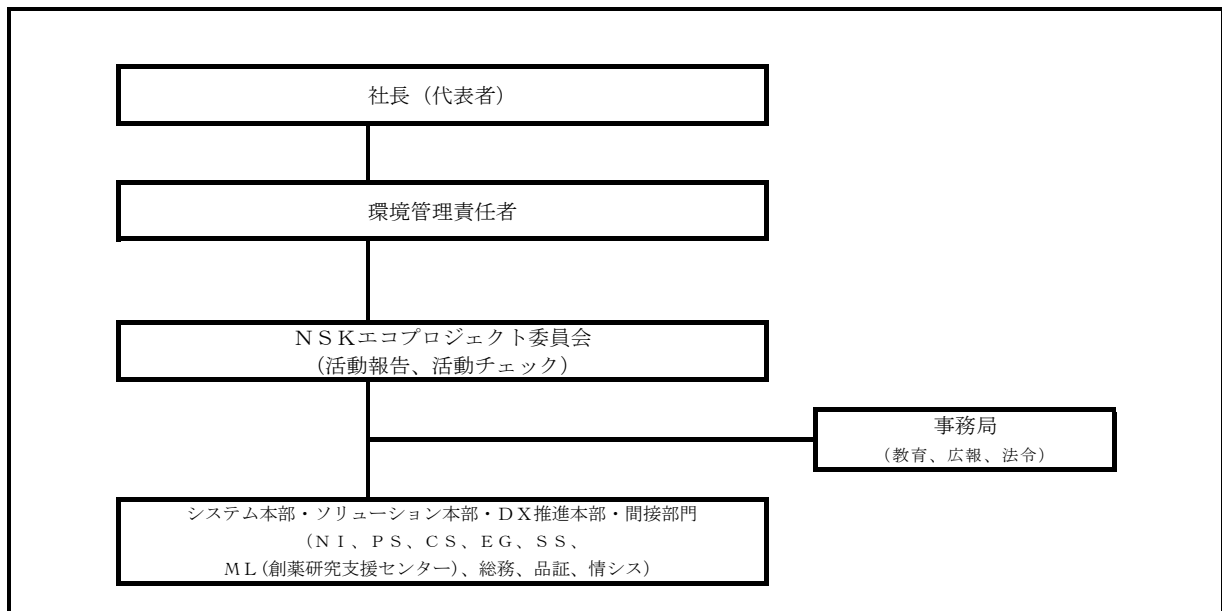
作業の効率化
作業分担の工夫



日本システム開発 エコプロジェクト

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

6-1. 実施体制



役割	責任及び権限
代表者	・環境経営方針の策定・見直し
	・経営の課題とチャンスを明確化する
	・環境経営レポートの承認
	・環境経営目標・環境経営計画の承認
環境管理責任者	・環境経営レポートの作成および確認
	・環境経営目標・環境経営計画の作成
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
事務局	・環境管理責任者の補佐、委員会の事務局
	・環境活動の実績集計
	・環境経営レポートの作成
委員	・自部門の環境活動実績の報告
	・委員会の決定事項を自部門へ周知

6-2. 53期の活動記録

エコプロジェクト・作業記録（53期：2022/07～2023/06）

年月日	内容	E A 2 1 対応目的	対象
2022年7月	52期エコ委員の選定	計画策定	事務局
	エコポスター作成・掲示（7/1）	教育・啓蒙	事務局
	B C P関連資料、規程類の更新・公開（7/25）	教育・啓蒙	全社
	エコプロジェクト会議 議事録公開（7/21）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	夏季大掃除（7/29）	廃棄物	全社
2022年8月	エコプロジェクト会議 議事録公開（8/19）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	53期計画の公表 N S Kカード作成・配布（8/31）	教育・啓蒙	全社
	環境活動レポート52期作成、公開（8/31）	教育・啓蒙	事務局
2022年9月	EA21中間審査 書類作成（9/1）	教育・啓蒙	事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（9/15）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	E A 2 1 現地審査(10/5,10/14)	広報	全社
2022年10月	エコプロジェクト会議 議事録公開（10/19）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年11月	エコプロジェクト会議 議事録公開（11/17）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年12月	エコプロジェクト会議 議事録公開（12/15）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	年末大掃除（12/23）	廃棄物	全社
2023年1月	危機管理 緊急時連絡「災害伝言板」訓練実施（1/16～1/20）	教育・啓蒙	全社
	エコプロジェクト会議 議事録公開（1/19）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2023年2月	エコプロジェクト会議 議事録公開（2/16）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2023年3月	環境法規一覧チェック（3/10）	法令順守	エコプロジェクト委員・事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（3/17）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2023年4月	新入社員へエコプロジェクトの説明(4/3)	教育・啓蒙	事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（4/20）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2023年5月	エコプロジェクト会議 議事録公開（5/22）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	クールビズ実施（5/8～9月末予定）	地球環境への配慮	全社
2023年6月	来期計画発表会（6/23） 電気・廃棄物の報告	啓蒙・教育	全社（パトゥール東京にて）
	生物多様性に関するDVD視聴	〃	
	エコプロジェクト会議 議事録公開（6/16）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局

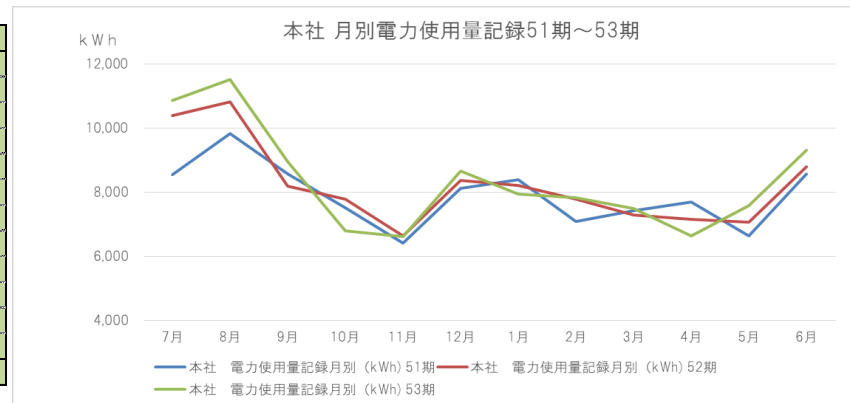
6-3. 3年間の取組の推移（電力と廃棄物）

●本社

【電力】

本社 電力使用量記録月別 (kWh)

	51期	52期	53期
7月	8,547	10,404	10,860
8月	9,845	10,819	11,525
9月	8,581	8,204	8,961
10月	7,527	7,793	6,801
11月	6,417	6,649	6,629
12月	8,130	8,381	8,660
1月	8,401	8,216	7,952
2月	7,095	7,785	7,842
3月	7,419	7,285	7,501
4月	7,703	7,165	6,636
5月	6,647	7,072	7,591
6月	8,569	8,792	9,324
合計kWh	94,881	98,565	100,282



* 51期以降電力消費は高止まりしている。感染対策として換気しつつ空調を利用する状態が常態化しているため。

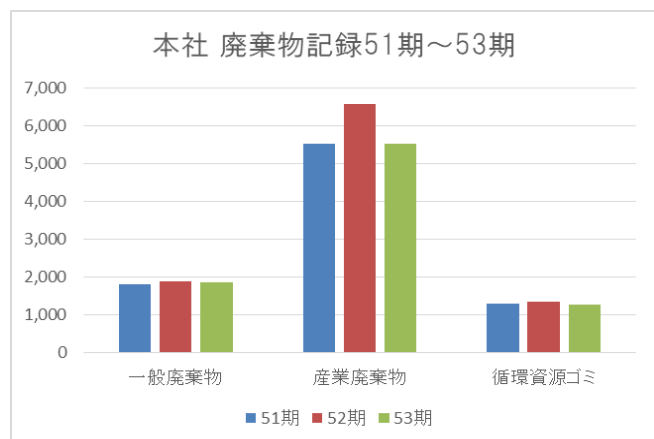
【電力のCO2換算】

	電力 kWh	調整後排出係数 (丸紅)	CO2換算 (kg-CO2)
51期	94,881	0.542	51,425.5
52期	98,565	0.496	48,888.2
53期	100,282	0.496	49,739.9

【廃棄物】

廃棄物記録期別 (kg)

	一般廃棄物	産業廃棄物	循環資源ゴミ
51期	1,815	5,540	1,295
52期	1,885	6,600	1,360
53期	1,860	5,530	1,278

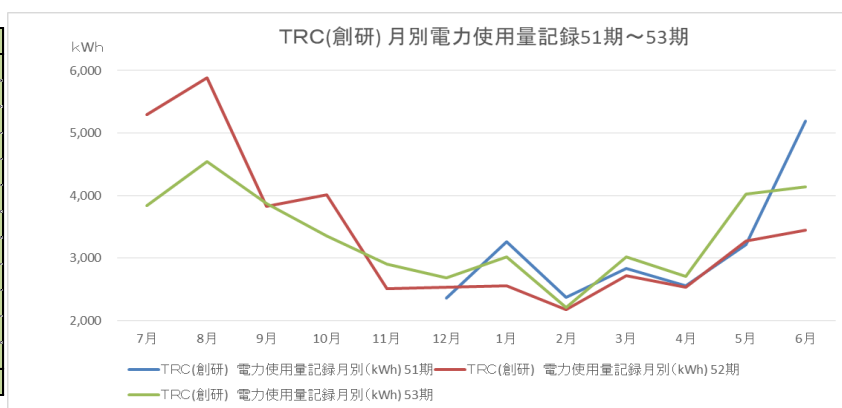


* 53期は、廃棄PCの数が例年並みに落ち着いたため、ほぼ目標通りの廃棄量であった。

●創薬研究支援センター

TRC(創研) 電力使用量記録月別 (kWh)

	51期	52期	53期
7月		5,290	3,837
8月		5,880	4,545
9月		3,832	3,870
10月		4,010	3,360
11月		2,512	2,901
12月	2,357	2,535	2,682
1月	3,268	2,556	3,017
2月	2,370	2,181	2,211
3月	2,834	2,718	3,023
4月	2,561	2,531	2,704
5月	3,218	3,277	4,026
6月	5,194	3,451	4,145
合計kWh	21,802	40,773	40,321



- * 化合物を管理しているので、部屋の状態を24時間一定の温度と湿度にしなければならぬため、夏は特に電気使用量が増える。
- * 52期の9月に空調を省エネタイプに買い替えた為、以降の消費電力は大きく減少している。

【電力のCO2換算】

	電力 kWh	調整後排出係数 (東京電力)	CO2換算 (kg-CO2)
51期	21,802	0.455	9,919.9
52期	40,773	0.441	17,980.9
53期	40,321	0.441	17,781.6

7. 53期取組結果とその評価、次年度取組内容

環境方針	環境目的	環境経営目標	実施項目	環境目標に対する実績と評価	次年度の取組み内容
環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	本社 95,000kWh以内 TRC(創研) 40,000kWh	昼休みの消灯 非使用場所の消灯 エアコンの設定温度の確認 扇風機の活用 離席時のディスプレイ消灯 主電源をこまめにOFF	本社 100,282kWh 目標未達 TRC(創研) 40,321kWh 目標未達	本社 105,000kWh以内 TRC(創研) 40,000kWh 新大阪開発センター 2023年8月に開設する新大阪開発センターにおいてもEA21を念頭に置いた活動を実施する
	一般廃棄物の分別	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,300kg以内	使い捨て製品の使用や購入抑制 ごみの分別の徹底 両面・集約印刷とコピー整理整頓	一般 1,860kg 目標達成 循環 1,278kg 目標達成	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,300kg以内
	産業廃棄物の適正廃棄	産業廃棄物 5,500kg以内	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄マニフェストの適正管理	産廃 5,530kg 目標未達	産業廃棄物 5,500kg以内
	作業時間の短縮	1人平均155hour/month以下	作業時間の把握 作業の効率化、作業分担の工夫	前期=平均154.9hour/month 今期=平均153.0hour/month 目標達成	1人平均155hour/month以下
教育・訓練	教育・訓練	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使う。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジの利用啓蒙 NSKカード着脱確認 創立記念式典での教育 委員会議事録作成と周知・毎月のエコ目標の決定と周知 社員へNSKカード配布、エコポスター掲示	エコチャレンジの利用状況は9.5割以上 携帯・着脱チェック 実施済みを確認した 創立記念式典でエコアクションについて発表を行い周知した 問題なし 毎月、委員会の会議内容を議事録にまとめ周知している 社内エコポスター掲示を確認した 社内WEB 掲示済みを確認した 問題なし	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使う。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する
		関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック 定期的な遵守チェック	チェックされていることを確認した 問題なし	関連法規をチェックし遵守する。
生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で生物多様性の現状とその保全状況を社員へ周知	創立記念式典での周知を確認した。 問題なし	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	以下の実施状況をチェック・本業においてエコを意識しているか ・ITシステム・ITソリューション提供による、顧客と社会の環境負荷削減貢献	自社製品の販売 Tablet 8本 MDSS: 6本 医療系: 6本 問題なし	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。 エコチャレンジシステムのアプリ化を進め、社内利用および社外への無償提供を開始する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、起訴等の有無

廃棄物処理法やフロン排出抑制法等の環境関連法規の遵守については、社内監査を適正に行っており、違反、訴訟等はありません。

関連法規	最終点検日	結果
廃棄物処理法	2023/7/31	遵守している
東京都環境基本条例	2023/7/31	遵守している
フロン排出抑制法	2023/7/31	遵守している

「資料：環境関連法規のとりまとめと遵守結果」より抜粋

関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

2023年7月31日
代表取締役 亀井政之
環境管理責任者 三浦 未知央

○環境経営方針について、見直しと指示

2006年のE A 2 1 認証取得以来、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。
特に毎月のエコチャレンジ実施は東京都から夏のHTT取組事例【事業者部門】受賞企業に選定された要因の一つでもあり、社員の実施率は毎月100%近くを保ち、ゆえに全社的なエコ意識も高い。
今後も重要視し続けていくこと。

○環境経営目標及び環境経営計画について、見直しと指示

- 1) 電力使用量については、ウィルス対策として窓を開けて空調を利用していることや社員数増加も影響し、近年は増え続けている。
クールビズ、ウォームビズを中心に節電努力を続けるとともに、
不要なPC、サーバー、デバイスが無いが各部に確認させ、不要なものは処分する。
- 2) ゴミの廃棄量については、ほぼ目標通りの結果となった。
パソコン類の廃棄が前年より少なく、ペットボトル等のプラごみ等の削減にも成功した。
今後も削減に向け呼びかけを強化していく。
- 3) 作業時間については、大きく削減した前年よりもさらに少ない作業時間となった。
売上げが大きく落ち込むこともなく、効率の良い作業を維持できている。
- 4) エコ、生物多様性の教育・啓蒙について
エコ、生物多様性については、例年通り、創立記念式典で全社員に向け教育・啓蒙した。
今後も継続して啓蒙していくこと。
- 5) 法令遵守
環境関連法規の遵守状況は毎年確認しており、問題なし。
- 6) 業務における資源削減、エコ素材推奨
ＩＴシステム・ＩＴソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献している。
54期もＩＴシステム・ＩＴソリューション提供に力を入れていく。

○実施体制について、見直しと指示

2023年8月より、大阪市淀川区に新大阪開発センターを事務所として新設する。
新大阪開発センターにおいてもEA 2 1 活動をしっかり回せるよう、現地にもエコ委員を配置し、推進していく。